

24 番谷口議員

谷口議員／市民クラブの谷口です。

最後の質問者になりましたけど、時間、十分とらせていただきたいと思います。

私は今回、先ほど、質問の中にあつたように、限界集落の問題。

これが町の真ん中でも、その問題があります。

私が取り上げようとしたのは、中心市街地の再活性化について、私はこの問題を指摘をします。

なにかというと、商工業者(?)の限界、農業の限界集落という意味とは違ひまして、まちの中心でも孤独死があります。

1、2年の間に何件か、かわいそうな死がありました。

もうひとつ角度を変えていくと、そういう商店街の中でも、空き家対策問題が出てくるような大きな問題のなかで、町の中心部がそういう状況になる中で、そういう問題をどういう取り上げ方をするのか、どういう形の中で解消をしていくか、大きな一つの市政の課題だと。

そういう意味で問題の質問をしていきます。

項目の順番でいうと、教育行政について。

反転授業にポイントをおいて、お尋ねしたいと思います。

また、歴史資料館と図書館の問題は避けては通れない問題です。

さらに角度を変えて、こういう問題があるとご指摘したいと思います。

文化行政と住民参加。

やはり、住みやすい町、住みたい町、いかに日本一であろうが、日本 2 番であろうが、住みたいと希望した方が、住んでよかったと思えるようなまちでありたい。

そういう気持ちからまちづくりの提言や、その考え方を。

さらに、福祉の生活環境の整備環境について。

いろんな問題ございます。

町で一番大きな問題が、犬の問題と猫の問題です。

本当に角度を変えていくと、野良猫の横行で、町の中の市街地が、猫が増えたということは、猫を大事にしてくださる市民も多いということで、どういう形の中で、行政としてしていただくかという問題もあるし、市民が取り組む問題もありますが、こういう問題があるということをご指摘、ご示しをしたいと思います。

それからさらに、市街地が限界集落てきないいわゆる農山村だけじゃなくて、まちの活性化が失われている。

そういうのを再活性化をするためには、どう考えているかを議会としても執行部にお尋ねをし、この点についてもお尋ねしたいと思います。

さきほど言いましたように、住んでみたい町から、住み続けたい町、住んでよかったまち

にするにはどうすればいいか。

たんに道路とか建物の問題だけではなくて、人の気持ち、心の持ち方を考えるべき課題があるような気がします。

最後に市長の政治姿勢について。

時間を十分にに使わせていただきたい。

まず第1に、反転授業についてお尋ねしたい。

この場所から反転事業について、山内東小学校に参りました。

教育研究実習が非常にすばらしかった。

単に県内だけでなく、九州などいろんな方々が、現場の勉強にこられて真剣に研究がなされていました。

子どもたちも公開授業に物怖じすることなく、楽しい学習状況だった気がします。

その中でも問題点いくつかありまして、それも含めて、お尋ねしますが、現在反転授業の公開授業について、どういう風な感想をお持ちか、それをお尋ねします。

議長／代田教育監

代田教育監／1月に山内東小学校で2回目の反転授業行ったわけですが、そこには、第1回目初めて武内小学校で行われたときの課題解決をひとつ取り上げました。

何が武内小学校のとき課題だったかという、先生方が予習で作るコンテンツが、すごく時間と労力がかかったと。

これをより、効率的にやるにはどうしたらいいのかが大きなテーマでした。

山内東のときは、武内のときは企業との30回ぐらいあったかと思いますが、激減して4回くらいのキャッチボールでコンテンツがうまく出来て、それを持ち込んで、より話し合い、学び合いが上手くできる企業になるだろうと、効率化とさらに授業の充実をテーマとしてやっていました。

その点で言うと、その2つともに、第1回目の武内小学校の反転授業よりも、向上が見られたと思います。

議長／24番 谷口議員

谷口議員／私も授業に、部屋に参りまして、勉強させていただいた。

子どもたちも生き生きして、先生方も意欲的な取り組みをしていると感じて、本当にすばらしかったと思います。

お見えになる各学校の先生、関係者の方々も一生懸命うなずきながら聞いていました。

私はああいうふうな、復習、予習することで、子どもたちの学力の向上とか、いろんな問題、ものの考え方、幅広い分析ができる、大きな成長に役立つだろうと、素晴らしかった

とおもいました。

ただ一点気になったのは、あんなに一生懸命子どもがしているんですが、山内の子どもたちに非常に感心したことが2つあった。

授業の中身の前に、素晴らしいと思ったのは、私は高齢のため、のろのろ運転で駐車しようと思って、雨が降り出して、子どもたちがちょっと、停車して、駐車場を探していると、こっちが良いですよと丁寧に教えてくれます。

あいさつもいいですね。

ほかの学校もそうだと思いますが、心あたたまる気持ちで学校に入りました。

この学校は、他の学校もいい学校ですが、公開授業にぴったりの学校だなと。

ただ1つだけ気になったのはですね、勉強においてになった、各参加者の皆さんのことだったわけです。

各学校の先生なり、関係者の方々も、一生懸命勉強でしたことはよくわかったんですが、ちょっと、この問題についてと言ったときにですよ。

子どもたちがタブレットで集団で、グループでやるかとですね、カメラのフラッシュがするやつですよ。

1つの部屋にだいたい100～200人の人が詰めかけているから、一斉にカメラが。

そしたら問題が提起されるたびにカメラがぴかぴかするわけね。

1回、180人くらいが撮影して、160、には16だから160ぐらいのカメラのフラッシュの中で、子どもたちはなにか一瞬戸惑う状況でした。

30分くらい経つと、慣れたんでしょうね、そういう気持ちだったかに、ああいう公開授業はそういうもんだろかなと気はしたんですけどね。

その点はどうですか？

議長／樋渡市長

樋渡市長／認識が違うと思います。

私も多くの議員さんがお越しいただいたときに、あの人数でよく平穩にできたというのが、私たちの認識だったんですね。

当時いらっしゃった古川盛義議員さんも、同じことをおっしゃっていた記憶があつて。

確かにカメラもあったが、お越しになられた方が、意識が高い方々が多かったので、後で、子どもたちと話したけれども、邪魔なつたねと聞いたら、いや全然、て言うので

元々、山内東も武内小学校も慣れているので、そこは、子どもたちを信頼したほうが僕は良いと思います。

確かにそうはいつでも、あれだけの人が、200～300人いるのは、想定よりも遙かに超してましたので、これについては、さきの一般質問でも、答えましたけれども、今度12校ですかね、11校に広がっていきますので、オープンデーを多くすることで、だんだんお越しに

なる方が、お越しになる方も慣れますし、量もお越しになる数も、少なくなるので、全然心配していない。

そういう意味で言うと、いろんな感じ方があるので、一概に否定するつもりはないですが、私自身はずっとみていて、抑制が取れて、自律的な対応をお越しいただいた方はしてくださったなと認識しておりますし、子どもたちも、喜んでました。

テレビ局のカメラで、これ全国放送ねと聞いてましたね。

われわれが思っているよりたくましいということです。

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／市長は角度の美しく、曲がった考え方をしますね。

私が、申し上げたいのは、子どもが頑張っている姿、素晴らしかったと思っているので、それを、カメラを持っている人が、結果を持ち帰って、みんなにこういう状況だったと報告したい。

そういう状況でなくて、時間中続いていた。

研究授業発表の仕方についても、子どもたちのことを考えていくことが、モルモットとか観客のための授業をしていないので、せっかくの素晴らしい行事が、もったいない。

子どもや父兄の立場に立って、そう思いました。

市長は、子どもはむしろテレビに映ったと喜んだとか、そういう子どものものの考え方でなく、私なりの考えで言っているので、市長よりも、教育長のお考えをお聞きします。

議長／代田教育監

代田教育監／実際に、2 回目の山内東の来校者は、350 名です。

当初 1 回目の武内小学校のとき、200 名だったので、そんなに来ないだろうと思っていたので、その部分で言うと、さらに 1.5 倍ということには少し見込みが甘かったと、正直反省しています。

武内小学校のときにはサテライト教室で、その教室に入らなくてもみれるように環境を整えましたが、山内東のときには 4 教室あるので、まあ何とかなるだろうというところの、見込みの甘さについては反省をしております。

ただ、全体としてはそれだけ注目しているとを肯定的にとらえていますし、大勢の方々がいる中で、先生も授業する、子どもたちも堂々と授業をするというその機会は大事だと思います。

大人達のマナーは、事前に配慮をするやり方もあったと思います。

繰り返しますが、こんなに多く注目を浴びているのは、想定外の部分もあったが、来年度以降は配慮したいと思いますが、市長の答弁がありましたが、来年度からは 11 校になるの

で、その負担は最初から減ると思う。

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／誤解はされないと思いますが、私が申し上げているのは、学習効果といいます
が、そのこと自体は素晴らしかったと評価した上での話ですから。

やはり観覧者のマナーが、そういう子どもの気持ちを御存じの方ばかりの集まりでした
から、あまりにも素晴らしく、賑やかなフラッシュの中で、子どもたちは戸惑いがなかつ
たのかと。

しかしあれを戸惑いがなかったのは、山内の子どもたちは凄いですね。

そういうふうな気持ちがいたします。

問題としては、今後そういう授業がどういう形の中で進められていくか、前段の、今回の
一般質問の中でもお話をしていましたので、あえてそれ以上申し上げませんが、その取り
組みの中で、そういう予習復習というものについて、父兄の方で考えているのは、こうい
う問題がある。

例えば、学校でどういうものを予習するのかの勉強。

あるいは復習をしていくのかという問題点をお聞きしていると思います。

やはり最近は少子化とかの関係で、兄弟がいないから、兄ちゃんと、妹と話すとか、お姉
さんと話すとかの少ない機会の子どもたちも結構いるんじゃないかと気がするわけですよ。
学校から帰った後の、ご父兄さんとの勉強が、慣れてくると、親なんか邪魔になるくらい
子どもたち一生懸命なるとおもいますけども。

その点の配慮とかそういうものはどういふうになっていますか、その点をお聞きしたいと
思います。

議長／浦郷教育長。

浦郷教育長／ただいまの質問については、後ほど教育監から、説明します。

先ほどのマスコミとか参観者のことについて、2点だけお話をさせていただきます。

武雄市の各学校では、非常に研究事業等頻繁にしております。

大変ありがたいと思っておりますが、このときには、必ずその学校の子どもたちのために
一番役に立つものでなければならない。

その学校の先生方のために参観者は二の次だという言い方で、すべて進めてきています。

それから、2つ目は、マスコミとか参観のフラッシュ等々ありますが、反転授業の場合は
家庭との関係もありますので、取材については、厳しい指導を教育観からしてもらって
おります。

いきすぎた場合は、実際に私のところに謝罪に来てもらったこともあります。

そういうかたちで、今後も、取材等、あるいは参加の仕方については、互いに注意しながらやっていきたいと思っています。

議長／答弁よろしいですか？

代田教育監

代田教育監／家庭での関係性というご質問ですが、反転授業の1つのいいところというか、特筆すべきところは、従来の勉強法だと学校で教科書の26ページから48ページまで読んでくださいというのが、ケースでしたが、タブレットで音声と動画ができるということで、これが家庭で、お父さん・お母さん、おじいさん・おばあさんと一緒にできるという機会が視覚、目で見える形でできるというのが大きい。

よりその家庭でのどんな勉強をするかというところの共有であったりとか、学校に対する興味関心の湧いている部分では、有効な勉強法だと思います。

さらに、逆に言うと、そういう家庭での連携を前提とすると、もうひとつの不安としては、そういうことができない家庭に関しては、どうするという不安もあると思いますが、これについては、家庭がどうしても難しいという子どもに対しては、前日の放課後、児童クラブ等で、地域の人たちが教えていこうというような体制を作ろうと思っております。

どうしても、家庭での勉強が、整わない子どもに対しては、セーフティーネットを作っていこうというふうに考えています。

以上です。

議長／24番 谷口議員

谷口議員／今、教育長と教育監の説明聞きまして、そういうふうに取り組みをしていただけることについて、安心というか、理解をいたしました。

やはり、あれだけの人に囲まれて、発表するということになりますと、さすがに、子ども達も戸惑いも全くないとは言えないという話はしましたが、それも体験ですものね。

あれ以上のことがあれば、あれくらいのことは多分素晴らしい体験になったと思います。

そういう意味では、子どもたちの成長にプラスになるだろうと気がいたします。

問題は、今度は学校教育に関連して、タブレットの件は結構ですから。

実は、中学の問題に関連してまいります。実は、今まで、青陵の中学校がありました。

何年か前に、高校に切り替わったわけですけど、そういうときに、中学校の教育の内容等について、結局県立の中学がなくなった。

そして、私立の中学校とか、ほかの市外、県外の中学校に行く子ども達とか、そういう問題が、いろんな問題に関連して、武雄の中学校の生徒たちの進学状況、中学、高校、大学進学の状況等についてやはりいろいろと、父兄としては非常に心配することをお聞きして

います。

現在、中学校では高校にする進学の状態、いかがになっていますか。

資料は請求しているので、お知らせをお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／中学から高校であります、地元の武雄高校、近隣の杵島商業、有田工業が多くて、嬉野、塩田工業、白石、そして伊万里方面の各校というふうな進路状況です。

これは、皆さん方その状況というのは、御理解される状況かと思えます

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／今、教育長から答弁いただきましたけれども、私が資料として頂いたものの中に、武雄高校、青陵高校、武雄市内の高校、前までは3つあったわけですが、現実には今は1つですね。

実は先日、県議会の一般質問2日目に、私佐賀県庁県議会で傍聴にまいりました。

これはあとで質問しますが、文書館の問題と、高校再編問題が質問にあった。

やはり、市民の中に、いろんな問題の大きな関心があられるようです。

私の質問の前に、上田議員が高校の進学の問題に触れておりましたが、実は、中学校の青陵の、いわゆるできたときに、武雄市内の中学校の子どもたちの3年生の先生方の中で、やはり学級経営なり、子ども達の学習や、部活を含めたことについて、非常に悩みがあり、問題が、悪い意味の問題点はないんですけど、問題点がいろいろあるような気がしたという感じがPTAを通じて、いろんな父兄を通じて、そういうことをお聞きしました。

現実問題として例えば、Aという学校から、頑張っている子どもは、いきなり、その学校の中学校に行かないで、県立に行く。

武雄市内の中学校の学級経営とか、子どもたちの動揺とか、あるいは、学習の効果充実ということに、影響がいろいろあるんじゃないかとお聞きしますけども、その点についてはどうなんですか。

県で農業はですね、県立高校の再編に絡んで、どうしても武雄だけです。

高校が1つしかないのはね。

ご指摘の間あったように、武雄だけしかないんです。

今まで3校あったのがですよ、女子校あわせて3校あったのが、武雄高校1校になっている。

唐津と鹿島もいくつもありますよね。

伊万里など、そういう風にして、周辺のところにみんな学校、高校が2つ以上ありますが、教育を中心的な役割を発展した武雄がですよ。

いわゆる単に高校が1つしかないことだけを問題ではなくて、そういうことによって、人材の流失とかそういうものが起こる可能性がある気がします。

そこで高校は、再編によっては、高校増やしたらいかにかという話が、可能性の問題は言及されませんでした。が、本気で、企業誘致、大企業誘致してあるいは一生懸命頑張ってもらって、そしていわゆる経済を活性化するとか、市のそういうものを浮揚させることも大事な課題ですけれども、教育環境を整備することによって、人材が武雄に残る、あるいは武雄から教育を受けてね。

という問題が、前に質問者していましたが、そういう大きな問題があるんです。

非常に利便にみえても、武雄が宇宙科学館を作ったような運動のように、あるいは歴史資料館を作った運動を展開したときに、市民運動をしても高校再編問題まだ出てくるわけです。

くすぶっているので取り組み方についてどういう風にお考え、市長にお尋ねしたいと思います。

議長／浦郷教育長。

浦郷教育長／たくさんの質問がありましたが、最後の質問についてお答えしますと、再編につきましては、武雄市の場合、一校になっているので表に出てこないわけでありすけれども、私としましては、杵島商業、有田工業、嬉野につきましても、学校別に、地区別にみましても、武雄からの子どもたちが多いわけです。

通学、あるいは経費等の面から考えましても注目しているところであります。

特に合併を計画しているような学校につきましては、また今後は来年の10月がめどだと聞いていますが、また考えて行きたいという風におもっております。

議長／樋渡市長

樋渡市長／教育長と同じであります。

議長／24番 谷口議員

谷口議員／教育長と同じ考えと言うことで、相違の問題は、本当に市を上げて市をあげて取り組みしていただきたい。

そしてまた、これだけ知名度があり、元気の良い頑張り屋さんの市長ですから、みんなバックアップして、武雄の教育環境をもう1つ作りたい、そういう運動を全市一丸となってやれるテーマですから、今から取り組む必要があると、そのときになっても追いつかない。そういう気持ちがあるもんですから、あえて質問の中にくわえさせてもらいました。

とにかく、そういうことで、前向きに取り組んで思い切りやっていくと、市民を結集するときにはよろこんで私は参加します。

そういう気持ちでございますので、ひとつ、前向きに思い切った活動をしていただきたいと思います。

次にうつります。

先ほど申しましたように県立の公文書館の話が出て参りました。

私、きのう、あるお葉書をいただきました。

コトウさんという方で、県の教育長をなさったかたです。

そして同時に今はどういう立場でいただいたかという、県立の公文書館を作る会の会長さんをしていらっしゃるということでございました。

私は、樋渡市長就任されて間もなく、こういうことをお話ししてお願いしたことがありまして。

武雄にはいわゆる、古文書、公文書、特に合併によって各市町村が抱えていたそういう風な古文書なり、公文書が散逸してしまう。

活字で説いてあるのは、紙だってボロボロになっていきますし、いろいろ問題ありますね。製図も電子と言いますか、新しい技法でいわゆる紙ではなくそういう風なもので掌握するというのは適正でないかという議論がありました。

私はそのときに、合併によって、山内もたくさん資料がありましたし、北方も武内も。

それぞれの行政資料を含めた公文書が、幾分に保存されていれば結構ですが、なかなか、1つの場所で保存するのは大変なので。

おそらく役所はだいたい、何年以上になると処分するという形があります。

昔はそういう記録としては、そういう、ファイルに入れて、ということができなかった時代ですから、なかなか大変だったと思います。

いつか申しましたように、県立図書館のほうから、非公式に、私がもっておりました、いわゆる武雄市が幕末、明治維新の時、武雄が佐賀県が伊万里県だったり、長崎県だったり、ミズノケンになったり、県そのものがなくなろうとしたときがあります。

そのときのものをイチノセ家ですね。

古い家ですから昔町長さんから預かっていました、やはりそういう教科書。

長崎県立武雄中学校、大きな公印の***資料をですね、市長にお見せして、こういう大事なものがあるからそれを、収蔵し、それを含めて他のところから全国から集めてでも、私は体育館をいくつも体育館とかいわゆる公文書館や収蔵施設をつくることで、観光事業や学問の信仰に繋がると、提言した。

あれから9年たちましたから、もう1つ取り組んでも良い問題というきがしたので、あえて、県立の公文書館出来る前に、武雄で公文書館を開いて、とりあえず県ができるまで、預かるとそういう風な物の考え方ができないだろうかと市長にお尋ねしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／昨今の市民のみなさんの意見を聞くと、消費税があがって、生活がしんどくなる。

あるいは、これから子どもたちが大きくなって学費にものすごい額がかかってくる、しかし一方で所得があがらないといったことがあり、そういった意味で言うと、優先順位からすると、それを否定するわけじゃないですが、かなり低いんですね。

行政というのは 360 度、森羅万象しないといけないので、それは予算を伴うので、優先順位をちゃんとつけて、やっぱりまだまだ借金がたくさんなんですね。

そういった箱物をつくるとなると、20 億 30 億かかってしまう。

これはおそらく議会もそうですが、市民が本当にそれに公文書館に対して、「いいぞ」ということをおっしゃるのかは私は、はなはだ疑問なんですね。

全く否定するわけじゃないですが。

そういったことで、私は、もし次を担わせていただけるなら、8 年前に市長着任したときの 420 億の借金を 300 億近くまでに返しています。

そして基金の総積み増しも 80 数億円を 113 億円まで積み上げています。

そういったなかで先ほど申し上げたとおり政治というのは、優先順位の話です。

ですので、困っているおられる方に、きちんと配分をするというのが、一番先と思っています。

ですので、わたしが、次どうこうするのは、一般質問で、私が言える話じゃないので、私の考え方とすれば、優先順位としては極めて低いと思います。

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／武雄市が財政的に優先的に他の施策をすることは結構ですよ。

それはそれで優先順位があります。

物の考え方は、武雄市のお金を使うという判断をするからそうなるんじゃないですか。

私が申し上げているの前段申し上げましたのは、たとえば県立の宇宙科学館をつくる時は県立ですね。

武雄市が出したお金はほとんどありませんよ。

100 億近く県が出しました。

今度公文書館をつかみに行かんと、県内いっぱいコネがあるんですよ。

だから佐賀に作らんで武雄につくってほしいというのは市長さんならできる気がすると思いますが、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／私はむしろ白岩の体育館。

さきの議会でも申しましたが申し上げて良いと思いますが、白岩体育館だったりとか武雄市の文化会館で、考えると、佐賀県政府に県立あるいは、県と市が出し合った複合施設というのがないので、そっちを優先しようと思います。

これはもとより、優先順位という先ほど私がね上から目線で申しあげて恐縮だったんですが、議会とよく相談する話ですので、議会と優先順位をつけてやっていきたい私も、何度もう願いをしたことがあります。

国に行ったときはお願いを受けた場面もございます。

自治体さんから要望を受けて、県とか府とかから、要望を受けて査定をさせていただいたこともあります。

そういったなかで、あれもこれも要望するところはなから問題にしないです。

戦略的に武雄市としてはこれこれを優先すると。

それがかなうかは別にしても、そういったなかで優先順位は、公文書館については否定するわけじゃないですが、きわめて低いということを、申し上げたいと思います。

議長／24番 谷口議員

谷口議員／今の市長の考え方はそうだと。

しかしあしたになると変わるかも。

要するに問題は、市民の気持ちがそこにすればですよ。

市長はしないといけない。

極端に言えばですけど。

要するにそういう風に市長にやってほしいという要望が高まってくれば、無視できない問題ですから、例えばそういうふうに、県に***。

今、県立公文書館では、建設する場所は決まってないそうです。

ですから、せっかくであれば、そういう問題を、なかなか、地味な仕事ですから、華やかではないから、取り組むのは大変ですが、非常に歴史的に次の時代に大事な物だと思います。

私たちが発言しないと、まだ、感覚の違いがあると思います。

古いもの大事にしないと、若い人も年とっていきます。

そういう時代のためにも、問題は提起しとかんといけんと気がしますので、***あえて申し上げます。

これは絶対に記録に残すべきことだから私はあえて申し上げているわけです。

非常に公文書館の問題は、インターネットで、集録してあった、貯金ですら、どこから侵入したウイルスによって、何百億というお金ががいつぺんに消えてしまったという、そう

いう時代なので、これは単なるデータとか記録でなく、きちんと物で残しておくのが大事ではなかろうかと気がして、どうしてもなりませんので、本当に地味な極めて地味な質問ですが申し上げます。

武雄ではこの問題も取り上げているとみんなにわかっていただきたいのですよ。

佐賀県人の方々にも凄い方がいっぱいいらっしゃるので、その点について、1つそういう取り方を県として今後頭に入れてほしいと思います。

次に移ります。

歴史資料館の問題です。

図書館・歴史資料館の問題です。

私のところに、難しい問題はわからないですが、いっぱい資料が参りました。

1日読むと、何時間もかかりそうですが、ちょっと読み切れないものですが。

千円図書館についてというデータは、69ですね。

70件くらいインターネットできたわけです。

1000円しか値打ちがない図書館じゃなくて、1000円は持って行かないともったいないぞという、表現のものであります。

お金がかかるということです。

こういう問題でもあるし、なおかつ武雄は注目されているので、市長をはじめ、議員の発言も注目されている。

この中で、いわゆる、「みんなで考えよう、色んな民意が試されている」ということで、武雄の千円図書館まとめサイトというのができました。

どなたかはわかりませんが、この中で子どもたちが、しっかり勉強できる環境づくりのために、そういうのがあるんだというのを申し上げます。

同時に図書館の問題で1点だけ。

確かに雰囲気もいいし、私も図書館に何回か行きました。

歴史資料館で展示も見たが、蘭学も素晴らしい思います。

蘭学にとっても、いろんなものがあります。

その中で見ていて、寂しいのは、展示する場所が数が多すぎて場所が狭い。

もっと強いていえば、市長はあまり不愉快になるかわかりませんが、例えば、ビデオの借り貸しをある一定の時期には返していただいて、他の場所にお金をかけて作られても結構です。

その分だけうつして、もともと蘭学館という、看板は、はずされている。

蘭学館の大砲も、あるいは、とにかく武雄の文化、歴史、展示することによって、あれだけの人間が武雄の図書館にお見えになる。

世界中の人が注目する図書館なら、世界中に注目される歴史上の展示物があってもよいのではないかと。

ご質問をいたします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まず、CCC と指定管理者をすりあわせているわけでもないのに、私見として申し上げます。

やはり、図書館は、とまったらだめだと思います。

人間と一緒に、成長する図書館、それもその時々、市民の皆さん、あるいは来館者の方々、Twitter で騒いでいる人は無視していいと思います。

お越しの皆さんが、ここはこうしたほうがいいよねというのが、あれば、それは相談しなければいけないし、議会にも相談しないといけない。

それは、変えていく必要がある。

旧蘭学館で、CD と DVD があるじゃないですか。

それはそのままでもいいと思っていません。

ですので、今、要望が多いのは、あそこで例えば、私がいくつか聞いているのは、キッズスペースがお母さんたちからほしいと。

あるいは、どうしても今、蘭学展をやっていますが、そうすると、メディアホールが使えなくなっているの、講演とか集会がしにくくなっている。

文化的な、そういう場にしてほしいなという意見がいくつかきているので、それに応ずる必要があると思っていますので、昔の蘭学のまま、作ったら終わりじゃなくて、市民の意見を聞いて、どんどん変えて修正していくのが私は大切だと思っているこれも議会とよく相談したいと思っています。

私どもの考えも CCC とも指定管理者ともすりあわせをして、市民目線にたった図書館にしていきたいとこのように思っています。

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／今、市長のおっしゃることはよくわかります。結局そういう問題の中でも、いくつか問題があると思います。

私は例えば、あそこで、お茶やコーヒーも飲みます。

それは快適な環境です。

問題は、気になったのは、私たちは、音楽を聴く習慣がないから非常に無粋で申し訳ないですが、音楽が、どこが図書館向けの音楽をながしているのかがよくわからんのですが。

本を読む、汚さなければいい。

それはいい、音楽を聴きながらコーヒーを飲みながら本を読むというのは問題があると思います。

私が申し上げているのが、結局、いわゆる、読者は静かに読みたい人もいます。

ですから、そこの音楽を、スターバックスですか。

喫茶部門に音楽のことを任せると、本を読む人たちを中心に考えて、コーヒー飲みたい人はのんでもいいんですが、四六時中音楽を流す…委託事業というのは、そこまで委託しているのですか。

問題になっているのは本当の素晴らしい環境をつくるのが大事ですが、そういうことが気になりますが、その点はどうか。

これは、教育長ですか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／指定管理者の実務の最高責任は私ですので、指定管理者の施設を、指定管理者の、管理するのは、所管の教育委員会ですから、議会で、大部分は私の役割ですので、説明しますと、全館で、音楽、全部かけているわけではない。

例えば読書室、の学習室に関しては、音楽が聞こえない構図にしています。

特には2階は100%聞こえないというようになっていますので。

スターバックスの席とか、奥の部分が、少し、入ってから、子育てのスペースですよ。

手前まで音楽が聞こえる。

これは、今度5月に出す本にちゃんと書き込みますが、なんでこれをしたかという、2年前の5月の集会のときに、これから図書館にしたいというときに、主婦の方が私のほうによってきた。

今の図書館だと子どもを連れて行けない。

泣いたりしたら非常に来館者の他の方々にストレスが自分自身にかかる。

子どもがその環境になると、子ども、よくわかるんです。

二度と図書館に行きたくない。

子どもがいるところは、少なくとも音楽をかけてほしい、大人も、親しめる音楽をしてほしい。

そうすると、わめいたりすると、音楽が、緩衝材になる言い方をされた。

かつ、ご覧になってわかるように、図書館でいろんな打ち合わせをされていて、あとお母さんたちが、女子会をされたりしていて、僕は、図書館の本当にあるべき姿の一つだと思っています。

もちろん、本を静かに読むスペースは先ほど申し上げたように、場所を変えればいい話であって、さまざま方々に、きちんとニーズに応えるのが樋渡市長市政の根幹ですので、そこはぜひ、席をずらし本を読んでいただければありがたいです。

全部自分と同じと思わないでほしいです。

音楽があり、良かったっておもうかたもいる、あなたのように、音楽がないのがいいという人もいますが、それぞれの場所で、自分の欲求を満たして、いうことが、今のあり得る

と思っています。

昔の図書館は一律でした。

音楽もかかっていないし。

多様性です。

公共施設でも、重要なのは多様性です。

多様性に応じて、まだまだ課題があるのは百も承知ですが、我々はそういった、図書館サービスをするべきと CCC に対しては、切実な声を踏まえて、私の方から、準備期間のときをお願いをしたというのが経緯です。

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／多様性の問題は結構ですが、私は自分の音楽を聴くのが嫌だからと申し上げてるわけじゃない。

そういう要望、気持ち、利用する方々の何人の方から聞いたので、あえて問題としている。対応はしますよ。

そういう読み方も方法としてはある。

ただ、音楽、種類程度はありますが、あえて申し上げませんが、そういう問題があることは、申し上げます。

次。

実は、現在図書館に何回か行って感じたのは、心配したが、そういう歴史資料や、政治とかなんとかを物品を開いて運搬するツールで、分類を。

メディアホールというか準備する部屋も少なくなっているからどうしてもそうなるんでしょうけど。

実際、いろんな資料にしてもものを運搬する通路まではみ出さなきゃいかんような、本当に貴重な本を預けることができないんじゃないかなろうかと。

私のいわばなんていいですか、杞憂であればしょうがないでしょうけど、そういう事があるということは、スペースが足りないんじゃないかなろうか。

図書館が非常に評価されていることをすべてを否定するわけではないですが、もっと良くするためには、いろいろ考えないといけない。

特に蘭学館の収蔵の問題、大砲にしる、常設の展示ができれば。

メディアホールがもうひとつなければ、何か方法があれば解決する方法がなかろうか。

最近では、メディアホールの入り口に水飲み場がありますよね。

指摘しましたように、ぶら下がって飲まないといけない状況になって、コップで飲めるようにしてあげるとか、気配りの下環境が子どもたちが必要というような気もしました。

いろいろ考え方あると思いますが、あえて、指摘しておきたいと思います。

同時に、5時になると、みんな子どもたちは帰してほしいとありました。

1人で来た人は帰ってくださいと丁寧な放送をしていて、安心しました。

いまはくらいですが、5時になると音楽が鳴ったり、明るくなりますから、事故に巻き込まれないように時間については、図書館が配慮して安心していました。

そういうのを含めて、いくつかの問題が素晴らしいものであれば活かすためによりよくするために努力するのが私たちの仕事だろうと。

次に空き家対策。

さきほど、松尾議員さんからご指摘ありましたが、冒頭申し上げますように、町の真ん中でも限界集落みたいになっている。

本当に亡くなったあとにわかった、気付くということがあった。

町中かがそういう状況になっている。

本当に、限界集落は農村や山村だけでなく、まちの中にも来ている。

実感として私達も感じています。

地域のコミュニケーションといいますか、隣近所声をかけあって、それぞれ努力してもらっていますが、独り暮らしのところには手が届かない。

女性の独り暮らしは声かけづらいことが結局続いて、2つほど起こってしまいました。

新聞が2日も新聞を取ってなかった、牛乳取っていないのはすぐわかりますが、町の中でもあります。

同時に町の中の活性化の問題が出てまいります。

たとえば、武雄市の中心街の温泉も通っています。

照明きれいになりまして、温泉道も夜遅くまで、賑わっていますけど、中心市街地の中では、町の中がだんだん寂れてきています。

事実上。

いろんな行事が成り立たない。

いわゆる市街地の再活性。

子ども議会でもそういうことが質問にありました。

自分の親、両親から聞いたんでしょう、温泉街は中心街賑やかで、お小遣いもらっていていた。

子ども議会でも、そういう市街地の活性化問題を取り上げている子どもがいました。

発言を正確にしないといけないので、子ども議会の議事録を教育委員会にお願いして、一般の議会では議事録がないので、議事録に類似するものを私が貸してもらいました。

その中にあったもの、子どもたちは、中心市街地の地域の活性化にどう考えていますか、ということ子ども議会質の市長のお答えは、図書館が、とのことで子どもが書いていたと。

議事録があれば私がお聞きしたいと。

質問の仕方がどうなのか分かりませんが、そういう事があったもんですから、中心市街地の活性化、再活性化についてのどうお考えか。

担当所管にもお答えいただきたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／あなたのご質問にびっくりしました。

議長／樋渡市長

樋渡市長／びっくりしたのも、立ち直りましたので。

再活性化というのは「再」というのはむずかしい。

人間の体もそうだと思う。

黒岩議員さんが、自分は65を超して、もう若い人に道を譲りたいとおっしゃって。

私は年齢うんぬんじゃなくて、やる気とかいろんな問題と思うんですが、確かに黒岩議員さんのご質問で、そこはそうだなって、思ったんです。

人間の体も同じなんです、新陳代謝がある。

活性化と、再活性化と考えたときに再のほうが、遙かに難しい。

私も四十半ばですので、20代の時とは全然違う。

アプローチというか、プロセスを考える必要があるだろうと。

考えないといけないのは、今武雄市は、山内町、北方町と一緒にあって武雄市になってます。

開発の場所を、本当に今までの例えば武雄温泉通り、私も活性化すればいいと思いますが、市民合意で、「ここをしていこう」ということの議論が私はあると思うんです。

私は周辺部は、自分が周辺部出身というのもあると思うが、発展をしないとこれからの武雄市は存在しないと思っているので、そういう観点があると思う。

それと今まで、旧武雄市は、大幅な借金を重ねて、私が市長に就任したとき、北方町と山内町に助けられた。

今までの旧武雄市というのは、あれか、これかではなく、あれもこれもやっている。

じゃないとあんな借金積みません。

水道料金を高止まりしたままあれだけ借金を重ねることはすごいと思います。

そこはわたしは、山内町、北方町のやり方を合併したのでやるべきだとも思う。

どこを再開発するのかは、議論するのが、僕は議会だと思います。

子どもたちに図書館のことを申し上げたのは、あれも、これもというのは、無理なんですよ。

あれか、これかとしたときに、図書館に力(ちから)を入れるなら、武雄神社があります、夢タウンもあります。

今図書館に力(ちから)を入れるなら、併せて、力(ちから)を入れたほうが武雄市全体の市民

価値が向上するという思いで申し上げた。

これが政治家と市長なら、子どもたちに良いことというねと。

私は政治ってこんな甘いものじゃない。

社会に出たらもっと厳しいです。

私は自分の意見を申し述べたに過ぎない。

それでごっかりされたというのは、子どもたちと話しましたが、市長は普通の大人と違うんですねと。

いいですよ。

それは、それで子どもたちに認められたと思っています。

そういうこと自体が、子どもたちにかわいそうだと思う。

私自身としては、何というか、子どもたちのまちづくりに対する考え方を十分に活かしていきたい。

一方でその場所をどうこうするかは、議会そして、市民の皆さんで話し合う必要があると。

あれも、これもではなく、あれか、これかという議論のまっただ中だと思います。

議長／24 番 谷口議員

谷口議員／私もあれかこれかじゃなくて、あれも、これもというんじゃなく、これをどうするかって問題です。

そういう気持ちは毛頭ない。

子どもたちにそういう発言をされたということは、自分で感じているから、何でもないです。

私が聞いたのは、その部分についての記録があります。

これは、教育委員会が議事録としてつくったんじゃないので、それを聞いて、ネットで収録したものを私の手元に届きましたので、私はお聞きしました。

嘘じゃないですよ。

あした私持ってきますよ。

議長／静かに。

谷口議員／いつか失礼なこともして、4本足のニワトリのときも資料もきちんとお借りしたことも示した。

相手がわざわざ貸したのに、わざわざ書類まで見せるまでした。

失礼じゃないですか。

私はそういうことは言いません。

議長／静かに。ヤジに応酬しないで。

谷口議員／いいですか。

私が申し上げているここから。

そういう子どもたちの成果を知るために、議会の議事録ありますから、ないということなので、私が持っている資料で話しています。

少々、あなたはそういう性格だから聞かろうと、固めて申し上げております。議会終了までに持ってきます。

議長に提出します。

私は嘘の問題で、質問するようなことはしません。

非常に失礼。

次に移りたいと思います。

先ほど、市長が中心市街地の再活性化について、私が再をつけたのは、一度、活性化の兆しが見えて、昔の賑わいを取り戻した時期があったが、今、少し停滞している。

もう1つ、みんなで、まちづくりができないかと、その問題点を指摘し、意見を聞いています。

しかし、再とはなんとかと謙虚に聞いて、できないならできないでいいです。

今、市長が何回も申されたが、住みたいまちの第2位になったと。

住んでいただくならば、もっともっと住みたいまちづくりにするには、どうするべきかと。

次に再選したらまたやります。

市長の政治姿勢は、こういう問題については、議会も市民から選ばれたが、少なくとも私たちも年を取っても、市民達から選ばれているので、そのことについて当然問題提起をする必要があると、あえて申し上げているわけです。

とにかく、今から高齢者の問題が1点あります。

いろいろ若い人がどうのこうのと話がありました。

あえて後ろを向いて話あげておりますが、高齢者の率が高いですから。

高齢者の気持ちを申し上げることも必要なんですよ。

私はあえて高齢者の皆さんの気持ちを代弁しています。

一応、必要とする質問はこれで終わります。

議長／以上で、24番谷口議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

お疲れ様でした。